

読んで考えよう

さいしよにチェック！

水・砂・泥

① (1) ハト・カラス・インコ・ジュウシマツ・ゾウ

(2) イ

② 羽のあいだ

③ 鼻・せなか

④ (1) イ ↓ ア ↓ ウ

(2) 泥パック

《かいせつ》

① (1) 水あびをする動物は、全部で五つです。本文の後半に書かれて
いるゾウを見おとさないようにちゅういしましょう。② 水あびをすることで、「動物はみんな、体を清潔にしようと思っ
ているんだよ」と書かれています。ここから、「体を清潔」にす
るために水あびをしていることがわかります。③ スズメがどのように砂あびをしているかを答える問題です。すぐ前
に、「羽のあいだにサラサラと砂を通して」とあるので、ここから書
きぬきましょう。④ すぐあとの「鼻で砂を集めてせなかにかける」「せなかをブルブル
とゆすって砂を落とす」という部分をまとめましょう。④ さいごの二つのだん落をよく読みましょう。さいごの一文で、泥あ
びのことを「泥パックみたいなものかもね」と言っています。

ことばについて学ぼう

① (1) イ (2) ウ (3) ア

② (1) 目

(2) 歯

③ (1) 耳

(2) ウ

(3) ア

(4) イ

《かいせつ》

① (1) それぞれ、①「のせる」、②「動かないようにとめる」、③「相
手にえいきょうをおよぼす」、④「電話を使って相手と話す」と
いう意味です。

(2) それぞれ、①「辞書でことばをさがす」、②「体内に入れる」、

③「引きよせる」、④「一つのをえらんで取る」という意味です。

(3) それぞれ、①「(バットでボールを) たたく」、②「強い感動を
あたえる」、③「でんぼうを出す」、④「ぶつける」という意味です。② (1) 「人を見る目がある」の「目」は物事をはんだんする力のこと、
「台風の目」の「目」は中央という意味です。(2) 「歯をくいしばる」は歯をかたくかんでこらえること、「のこぎ
りの歯」の「歯」はきざみ目という意味です。(3) 「耳が遠い」の「耳」は物を聞く力のこと、「パンの耳」の「耳」
はふちのところという意味です。

読んで考えよう

さいしよにチェック！

① ぼうやのしか (子じか)

② 春 (花)

① (1) ウ

(2) ア

② かね

③ (れい) 何の音か

④ ウ ↓ ア ↓ イ

《かいせつ》

① (1) 「ぼうやのしか」は、「花とはどんなものだから、春とはどんなも
のだから」わからないのです。② (2) 「ぼうやのしか」は、まだ花をみたことがないのだから、生ま
れて間もないのだからということが読み取れます。③ 「ぼうや」という音はお寺のかねだよ」と、お父さんじかやお母さん
じかから教えてもらっています。④ 「その音にさそわれて」山をおりているので、何の音かふしぎに思っ
て、知りたいと思っていることが読み取れます。

④ 山の下におりたあの子じかの行動を順番に読み取りましょう。

ことばについて学ぼう

① (1) すい

(2) わ

(3) しょ

(4) かい

(5) げつ

(6) げつ

(7) げつ

(8) げつ

(9) げつ

(10) げつ

(11) げつ

(12) げつ

(13) げつ

(14) げつ

(15) げつ

(16) げつ

(17) げつ

(18) げつ

(19) げつ

(20) げつ

(21) げつ

(22) げつ

(23) げつ

(24) げつ

(25) げつ

読んで考えよう

さいしよにチェック!

- ① ウンカ・ヨコバイ
② 大発生

① 田んぼ

② (1) ア

(2) (れい) 田んぼに農薬をまいた

③ クモ・ウンカやヨコバイ

④ クモ・ウンカ・ヨコバイ・イネ

《かいせつ》

① 「田んぼにいる虫」と書いてあります。

② 「クモがウンカやヨコバイをたべるのです」とあるように、クモが、イネの害虫である「ウンカやヨコバイ」をたべてくれたので、大発生することがなかったのです。しかし、「イネの害虫をたいじするため」にまかれた「農薬」によって、害虫だけでなくクモもいなくなってしまう、という内ようを読み取りましょう。

③ ウンカやヨコバイのふえる回数はクモよりもずっと多く、数のへってしまったクモでは、これらの虫を食いつくすことができないのです。

④ ウンカやヨコバイが大発生した流れを、文章全体から読み取りましょう。

読んで考えよう

さいしよにチェック!

- ① お母さん
② カエルのおもちゃ

① ウ

② カエルのおもちゃ

③ ア

④ 覚えていてくれた

⑤ (れい) おもちゃのカエルがうまく泳ぐ

《かいせつ》

① お母さんは、「何でもじっけんしてみるのが好き」なのです。

② 「あのカエルでした」とあるので、どのカエルなのか考えましょう。

③ 「うれしいよ。ありがとう」ということばからも、お母さんのよろこびがわかります。

④・⑤ お母さんはもう大人なのだから、今さらカエルのおもちゃでじっけんをしたいわけではありません。お母さんにとっては、カエルがうまく泳ぐかどうかということより、さきちゃんが自分の話を覚えていて、たん生日にプレゼントしてくれたことの方がうれしかったです。

ことばについて学ぼう

① (1) アパートに住む。

(2) 切手を集める。

(3) 校庭で遊ぶ。

(4) 六時に起きる。

② (1) しょうらいは学校の先生になりたい。

(2) 図書室で本を読む。

(3) (れい) わたしが庭をさんぽする。

(れい) わたしは庭をさんぽする。

(4) (れい) さくらの花がさく。

③ (1) (れい) 一時から自由時間です。

(2) (れい) お母さんがおやすみなさいを言う。

《かいせつ》

① (1) 「アパートに行く」「アパートへ行く」ということはできても、「アパートへ住む」という言い方はしません。

② 「だれが」「どこで」「何を」しているのかを正しくつかみましょう。

③ (1) 「これからまで」というつながりをおぼえておくといでしょう。

(2) 「お母さんが」と「お母さんに」のちがいに注意しましょう。

ことばについて学ぼう

① (1) (れい) とどきました。

(2) (れい) マフラーでした。

(3) (れい) あんでくれたのです。

(4) (れい) おれいを言いました。

② (れい) カジカという名前だそうだ。

(れい) すると、ついにつれた。

③ (れい) 本は、うちにも何さつかおいてあります。

《かいせつ》

① ていねいな形の文は、文末に「です」「ます」をつけることで作れます。「とどく」は「とどきます」「とどいた」は「とどきました」のような形になります。

②・③ ②はふつうの形の文章、③はよりていねいな形の文章です。二つの形の文末が、一つの文章の中でまざらないようにしましょう。